# 3・11 あの日から…

## 釜石の仲間に2本贈る
# 復興願う老木の音

### 渋川梅笛保存会（渋川）

渋川市中心街を舞台に隔年で開かれる伝統行事「渋川山車祭り」では、市重要無形民俗文化財に指定される「渋川祇園囃子（ぎおんばやし）」がにぎやかに響き渡る。おはやしで耳に残るのが、樹齢を重ねた梅の木をくりぬいて作った梅笛（ばいてき）の重厚感あふれる音色だ。

東日本大震災を受け、渋川に伝わる梅笛を守り続ける「渋川梅笛保存会」（金井敦会長）は、津波で笛を流された岩手県釜石市の郷土芸能団体に地元に伝わる梅笛を贈った。企画広報部長の田中孝さん（35）は「祭礼を通じて神様が紡いでくれた縁を大切にしたい」と話している。

きっかけは震災後の昨年夏、岩手県釜石市の郷土芸能「鵜住居虎舞（うのすまいとらまい）」を守る岩鼻金男さん（48）から梅笛会が利用する渋川西部公民館に掛かってきた1本の電話だった。地元の祭りでは師匠から受け継いだ梅木の笛を吹いていたが、津波によって5本あるうちの4本を流されてしまった。「復興のため、犠牲者の鎮魂のためにも、祭りで地域を盛り上げたい」として同じ梅の笛を探し続け、田中さんが管理する梅笛会のホームページにたどり着いた。

「梅の木を使っているだけでも珍しいのに、保存会まで組織されていて驚いた」（岩鼻さん）。秋には渋川市を訪れ、田中さんらと面会した。

地元の伝統を守りたいという熱意に動かされた梅笛会は、田中さんの師匠にあたる藤井隆さん（63）が手掛けた梅笛2本を手渡した。岩鼻さんは「渋川の伝統を受け継ぐ梅笛をいただけて胸が熱くなった」と当時の心境を振り返る。

渋川の梅笛は、全長60～70センチを超える大型の横笛で「（吹けば）三里響く」ともいわれる。その一方で岩鼻さんが使っていた笛は全長30～40センチ程度と渋川のものと比べると小さい。笛の大きさが違えば当然吹き方も異なるため、梅笛を吹きこなせるようになるには時間が必要だという。それでも「いつかものにしたい」として練習に励んでいる。

「様式は違っても同じ郷土芸能を守る仲間。自分が渋川の梅笛を持っていることには大きな意味があると思う」と語る。

田中さんも「ことしは渋川山車祭りが開催される。ぜひ岩鼻さんを招待して梅笛のおはやしを聞いてほしい」と意気込む。梅笛が結んだ交流はこれからが本番だ。

渋川と釜石をつないだ伝統の梅笛

# ルシアナさん国家試験に合格
## 『いい看護師に』
### 沼田で研修

来日2年

第101回看護師国
た。本県の外国
者の合格は初め
さんは「いっぱい
いい看護師にな
でいる。

ルシアナさんはインドネ

護師と一緒に入院患者のケアに当たっており、看護師免許が交付されれば、同じ職場で看護師としての一歩を踏み出すことになる。「病院の大きなサポートをいただいた。まだ、分からない日本語はいっぱいあるが、新しい看護技術を勉強した

師候補者は3年、介護福祉士候補者は4年の滞在が認められ、この間に国家資格の取得を目指す。第101回看護師国家試験は両国の外国人看護師候補者415人が受験し、47人が合格した。

我音さんは「安全

がれき
あす住

震災がれき
題で、吾妻
合は12日、中
東部衛生セン
ら行ってきた
のがれきの試
通り終了した
た焼却灰は14
の最終処分場
め立てる前に
と同様、地元
量を測定して
10日夕に中
した焼却灰と
射性セシウム

という。中
れた野生の
荷や販売が
る。担当者は
安全が確認
ているフキ
て食べてほ
ている。
検査地域は
か、桐生、沼
高山、東吾
町村。中之条
うち2検体が
検体は8・0

本庄の学
数校3